

# 『“知らんぷり”で困った行動を減らすコツ』

～注目の向け方を変えることで、関係を守りながら行動を変える～

## ①「困った行動」はメッセージかも？

子どもの“困った行動”には「かまってほしい」「見てほしい」「助けてほしい」などの気持ちが隠れていることがあります。行動理論では、『注目を得た』行動は強まると言われています。つまり、「叱る」「注意する」ことも実は『注目』となり、結果として困った行動を続けてしまうこともあります。そこで、“**知らんぷり**”という対応が効果的な“場合”があります！



## ②”知らんぷり”の基本

⊗危険な行動、他害(他人に危害を加える)行動には使わない(必ず止める)

⚠「冷たくする」のではなく「落ち着くまで見守る」気持ちで

⊗行動が落ち着いたらすぐに“はなまる”行動を見つけて声掛け！

例)「静かにできたね」「言い直せたね」など小さな“できた”をキャッチ

## ③関係を守るために

“知らんぷり”は信頼関係があるほど効果的。普段から「できたね」「ありがとう」など**ポジティブな注目を積み重ねておく**ことがとっても大切です！

ありがとう♪



## ④別のアプローチ

①注目の方向  
を変える

これを手伝ってくれたらうれしいな

②気持ちの代弁

構ってほしかったんだよね

③やり直し  
チャンス

もう一回言い直してみよう

④一緒に静かに待つ

ここで少し落ち着こうか



“知らんぷり”は「無視」ではなく、「注目を選ぶ」という、行動を変換していく一つの技法です。初めの頃は、「あれ、反応がない」と思った子は“消去バースト”と呼ばれる「どうやったら反応してくれるか」と行動を強く出す場合があります。その時は堪えるしかありません。だからこそ、普段のポジティブな関わりや“こういう時はお話聞いてあげられないよ”という予告や、“こういうときはこうしたら良いよ”という行動指針を伝えておくことも大事です★

### 次回予告：Vo.5

3つに分けた子どもの行動のうちの3番目感情が高ぶったときの「ぼうそう行動」への対応をお届けします。



もあなinsta  
頑張ってます！  
是非ご覧ください♪



～スタッフ紹介コーナー～

- ★呼称:たいせいさん
- ★資格:児童指導員、子育て支援員
- ★好きなこと:機械いじり (switchコントローラーの修理もできます)、川釣り、シャトレゼのアイス、たまにふらっと一人旅♪

もあなHP  
支援プログラムなど  
公開しています！

